

第16分会 平和、国際連帯の教育

平和の尊さに気付き、平和への思いを伝えようとする子どもの育成  
～過去の事実を知り、平和への思いを詩に表す活動を通して～

1 主題設定の理由

グローバル化が進む今日、地球規模で取り組まねば解決できない問題は山積みである。核問題、朝鮮半島の関係の悪化、国際テロなど、人々の生活を脅かす国際的な課題は依然としてなくなる。世界で唯一の被爆国である日本が、平和の大切さを訴えていくことの意義は大きい。平和を維持していくためには、国民一人一人の平和への意識をさらに高め、国際社会に貢献する態度を育成する必要がある。そのためには、平和でない世界がいかに大変で辛い生活や思いをもたらすのか、気付き、考えていくことが大事ではないだろうか。そして、このことは学校教育に求められる重要な役目でもあるといえる。このような中で私たちは、どのような平和教育を行えば子どもたちの心に響くものになるのか、どのように子どもたちの心を育てていくかを考える必要がある。

そこで、本研究においては、「戦時中の暮らし」について学び、過去を知る活動を通して、今を振り返り、自分たちにできることは何か考えたり、自分の思いを伝えようとしたりすることをねらいとしている。

平和に関する学習を通して、過去の事実に関する知識・理解を深め、現在、未来の社会をみつめることにより、平和を尊重する心を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

学習過程において、調べ学習やその当時の人々から話を聞く活動を通して、戦時中の暮らしについて知り、考えたり表現したりする場を設定すれば、平和についての意識や考え方が深まり、平和への願いを広めようとする子どもが育つであろう。

3 研究内容

- (1) 戦争時の暮らしをテーマとした調べ学習を行い、当時の生活状況や悲惨さについて知る。そして、調べたことをもとに戦争体験者の思いを聞き、自分の生活と比較することによって、平和の尊さに気付き、それを大切にしようとする子どもを育成する。
- (2) 子どもたちが学習して感じたことを話し合い、自分たちの言葉で詩を作成する。そして、全校へ戦争について伝えるため、群読や寸劇を行う。このように、子どもたち自身が再度平和の尊さと向き合うことで、平和への思いを伝えようとする子どもを育成する。

4 結論

今回の取り組みを通して、平和への知識や理解、そして考えを深め、思いを伝えようとする子どもを育成することができたと考える。